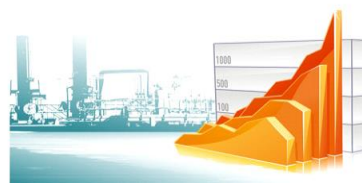


ぎふ経済レポート



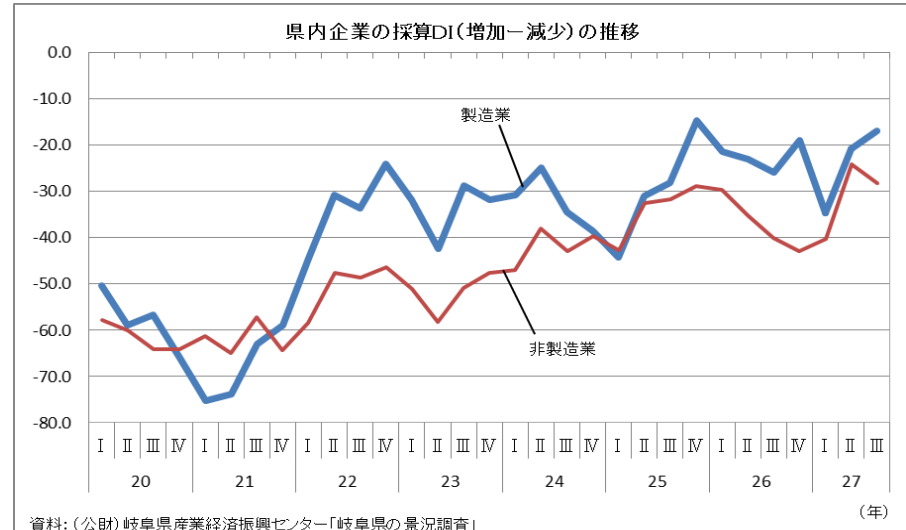
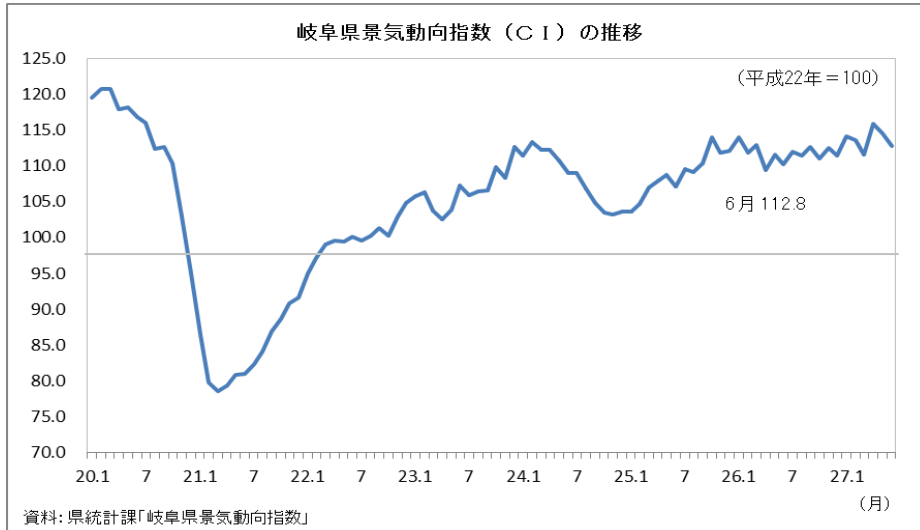
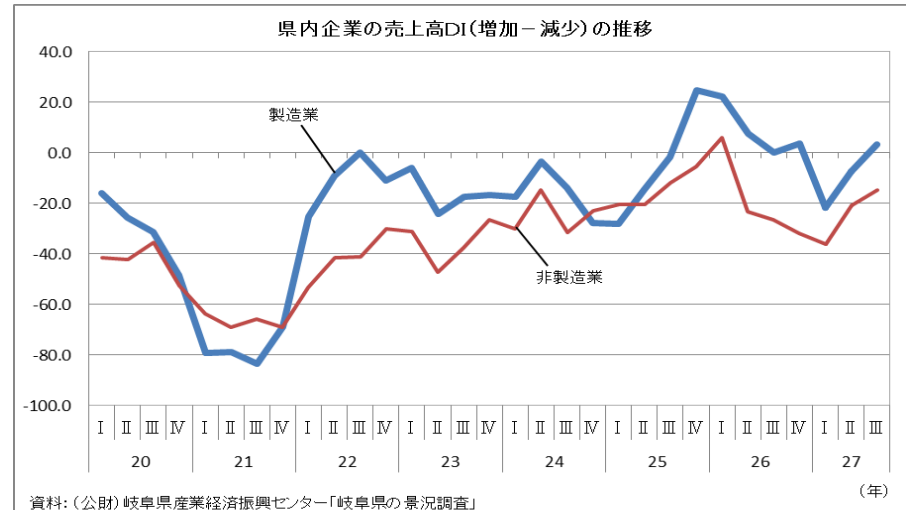
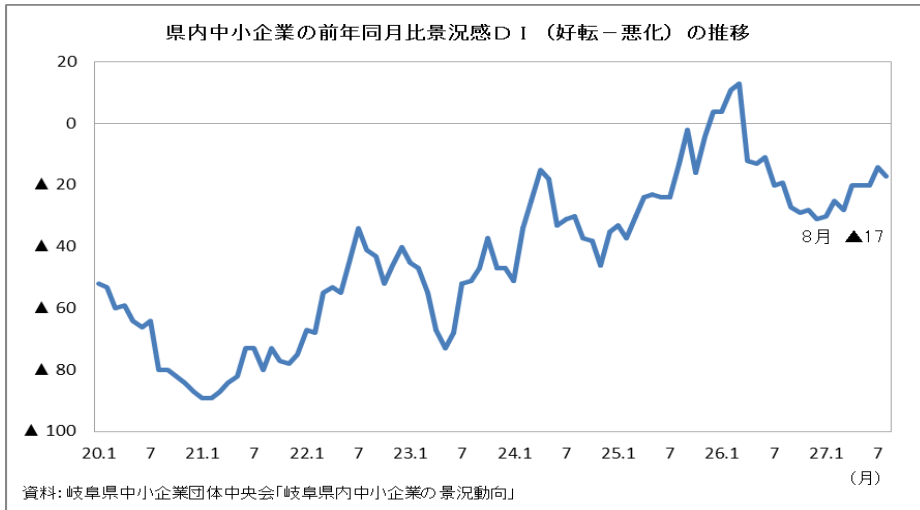
平成27年9月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは9月28日～30日を中心に実施し、10月8日に作成。

景気動向

- 8月の県内中小企業の景況感は、マイナス17と前月より3ポイント下降した。
- 6月の景気動向指数(一致指数)は、112.8と前月より1.7ポイント下降した。

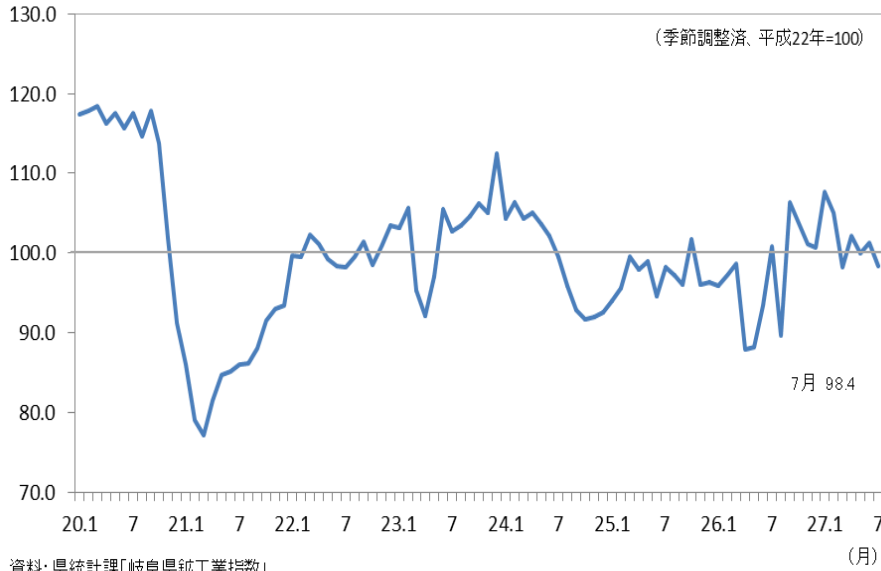
- 平成27年7-9月期の売上高は、製造業・非製造業ともに2期連続で増加した。
- また、利益は、製造業が2期連続で増加し、非製造業は3期ぶりに減少した。



製造業

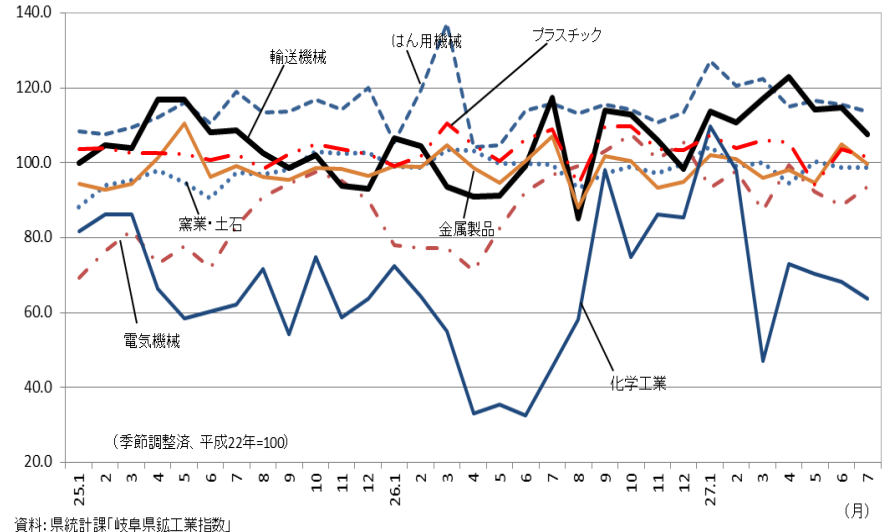
○7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、98.4と前月比マイナス2.9%となり、2ヶ月ぶりに下降した。

鉱工業生産指数の推移



○7月の主な産業の鉱工業生産指数(季節調整済)は、電気機械が前月より上昇し、化学工業、輸送用機械、はん用機械、金属製品、プラスチックが前月より下降した。

主な産業の鉱工業生産指数



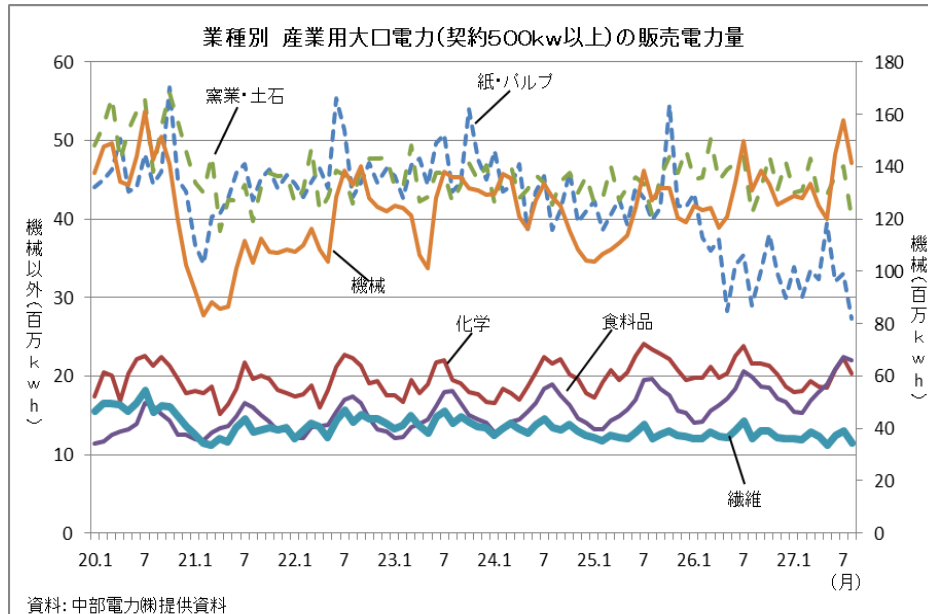
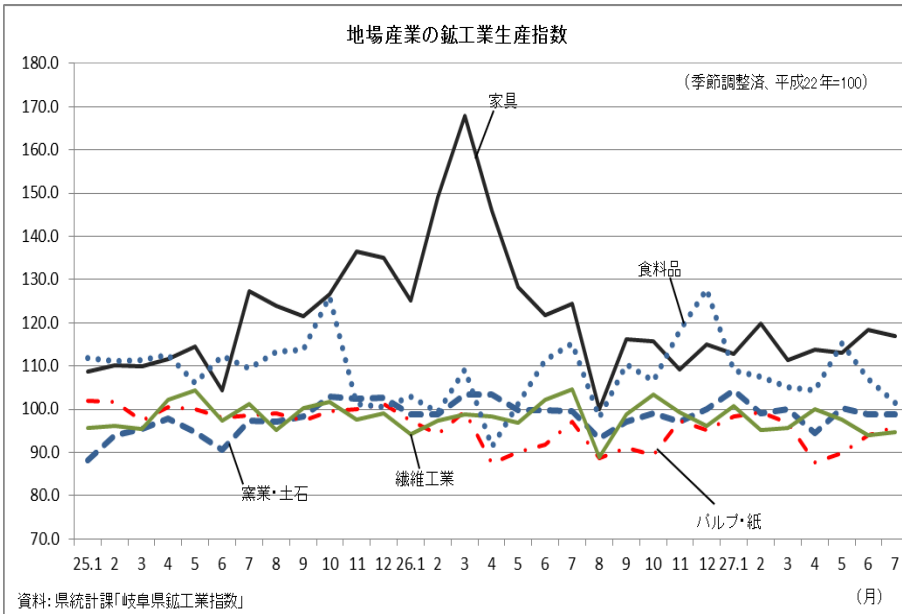
現場の動き

- ◆ 北米販売は比較的好調ではあるが、中国の伸び率は減少傾向。
- ◆ 生産、販売は依然好調。上半期は、前年よりも出荷が増加しておりプラスの見込み。(以上、輸送用機械)
- ◆ 9月に入り堅調に推移してきた受注の動きが鈍ってきた。中国経済の減速の影響が表面化しつつある。
- ◆ 9月はやや下降したが、10月-12月期の受注も好調を維持できそうである。(以上、生産用機械)
- ◆ 売上は、対前年比8%増。VW問題や中国経済の減速等、どれだけ影響があるか読めず不安。(金属製品)
- ◆ 売上は横ばいであるが、受注は増加してきた。(電気機械)
- ◆ 中国の市場の不安定化の影響を受け減少。(食料品)

製造業-2

○7月の地場産業(刃物を除く)の生産指数は、パルプ・紙、繊維が前月より上昇したものの、家具、食料品は低下した。また、窯業・土石は前月と同水準で推移した。

○8月の工場向け電力販売量は、機械が3ヶ月連続で前年を上回った。また、化学が14ヶ月連続で、窯業・土石が10ヶ月連続で前年を下回った。

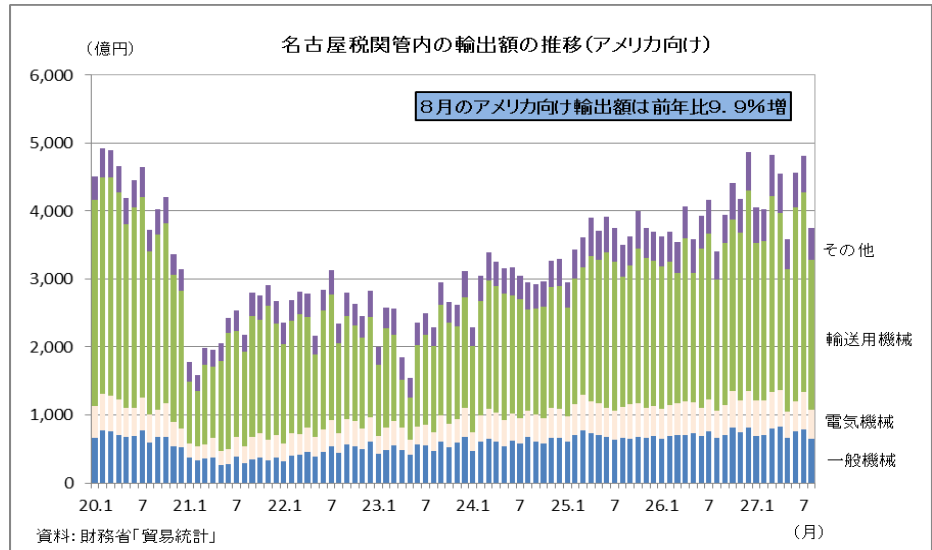
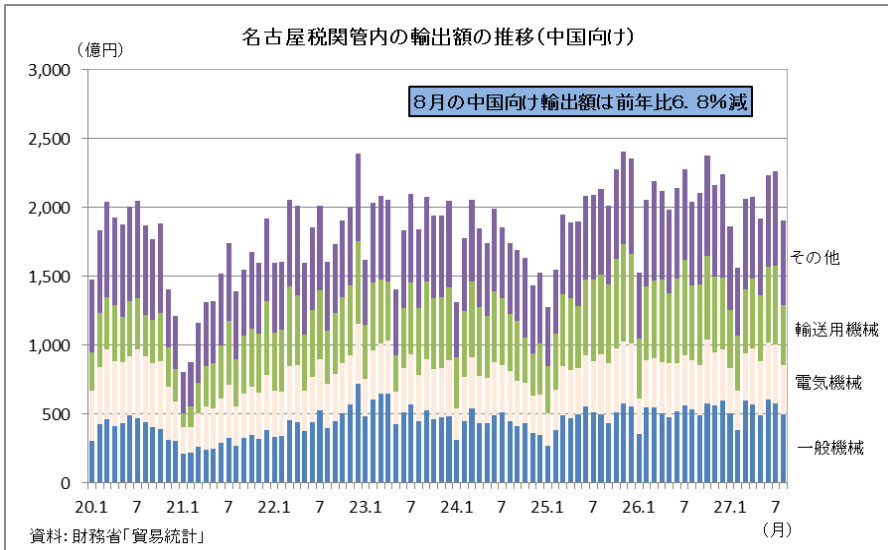
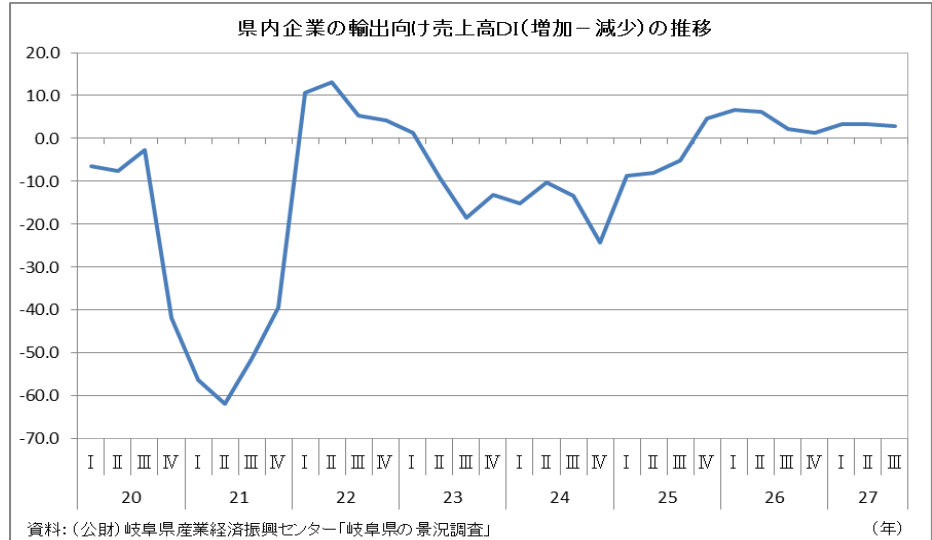
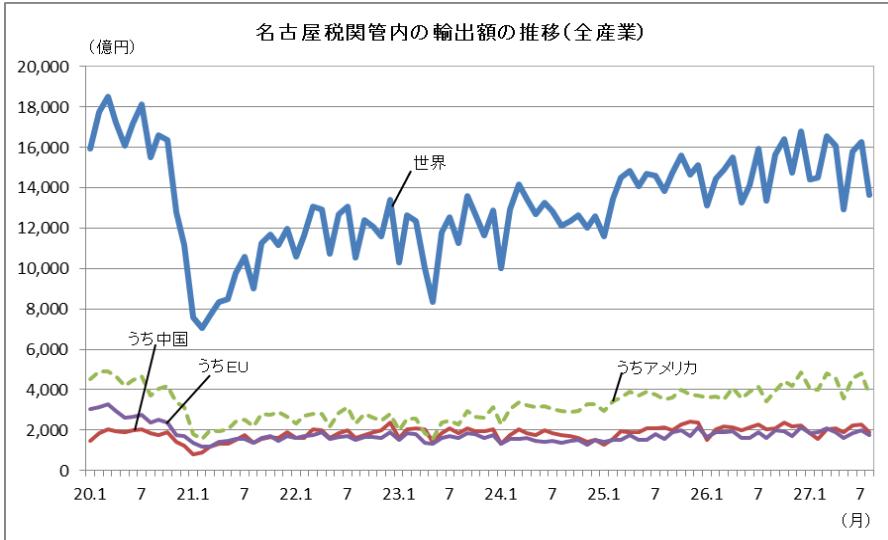


現場の動き

- ◆岐阜のアパレル業界が主に取扱う中間の価格帯のものは売れず、低価格帯のものが選ばれている。(アパレル)
- ◆輸入原料の値上がりに伴い価格転嫁したことで売上高は、前年同月比115%と増加したが、出荷量は減少。(紙)
- ◆外注先の高齢化・廃業が進み、注文が集中してしまうため、受注はあるが生産が追い付かない。(刃物)
- ◆来年5月頃までの受注が詰まっている。円安により貿易向け商品が好調。(陶磁器)
- ◆売上高は、前年を下回らない程度で推移。ギフト販売の売上が要となっている。(食料品)
- ◆家具の天板(一枚板)をやっているが、昨年同時期に比べ2~3割くらい忙しいと感じる。(木工)

輸 出(名古屋税関管内)

- 8月の輸出額は1兆3,627億円で、前年同月比1.9%増と3ヶ月連続で前年を上回った。
- うち中国向けは、すべての産業で減少し、同6.8%減と2ヶ月連続で前年を下回った。
- うちアメリカ向けは、輸送用機械と電気機械が増加し、同9.9%増と12ヶ月連続で前年を上回った。



為替・原油価格の動向による影響について

- ◆110円/\$で予算を立案しているため、米国利上げ動向を注視している。
- ◆円安により主要客先が国内生産に一部シフトされる見通し。
- ◆LNGは、ピーク時の半分ほどまで下がっており、現状、都市ガスとあまり価格に差がない。(以上、輸送用機械)
- ◆原油の価格変動幅が大きいいため、販売価格に大きな影響を与えている。(プラスチック)
- ◆円安や原油安の影響は感じられない。(はん用機械)
- ◆輸入している原材料、資材の高値が利益を圧迫しており厳しい状況が続いている。(食料品)
- ◆円安による材料費の増加を価格に乗せられないため利益を圧迫している。(アパレル)

アベノミクスの効果・影響について

- ◆トヨタ自動車部品調達価格の値下げ要請を見送ったことにより、一部の中小企業にもアベノミクス効果が表れた。
- ◆補助金や税制優遇などを有効に活用している。(以上、輸送用機械)
- ◆法人税引き下げの効果が決算時に出てくる。(プラスチック)
- ◆所得が上がっておらず、客数が増加していない。(スポーツ用品)
- ◆プレミアム商品券は、資金化までに日数がかかり、資金繰りに苦慮している。(大垣市商店街)
- ◆例年よりも若干単価の高いものが売れている。(大型商業施設)
- ◆外国人観光客は多く、アベノミクス効果(円安等)があると思われる。(高山商店街)
- ◆「第三の矢」の動向に注視したい。(金融)
- ◆アベノミクス効果は感じられない。(アクティブG、家電、商店街、住宅関連)

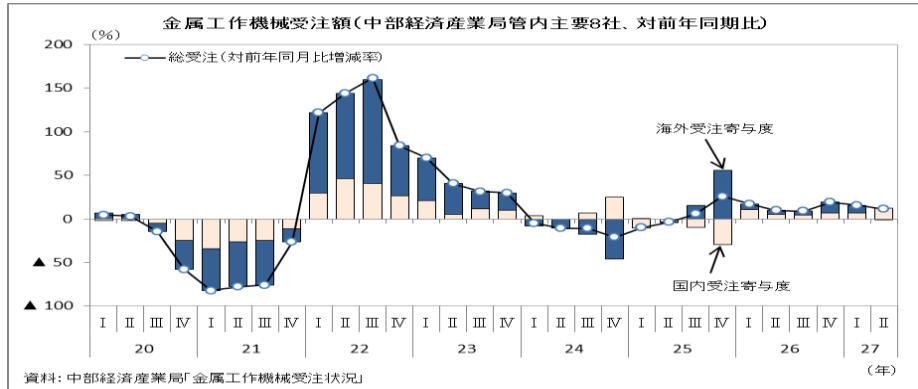
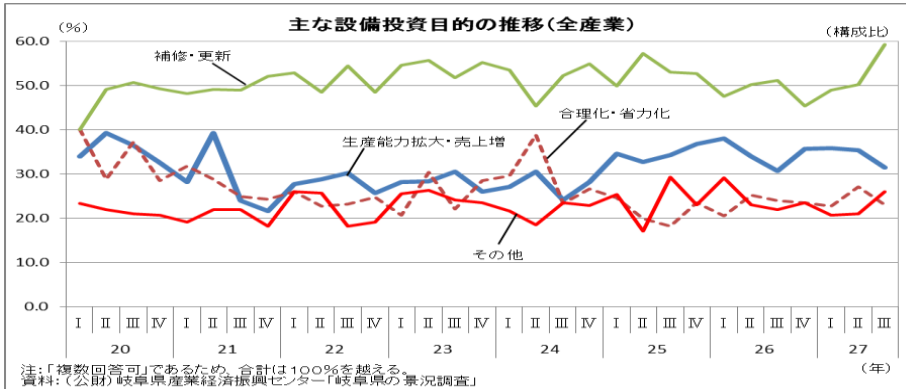
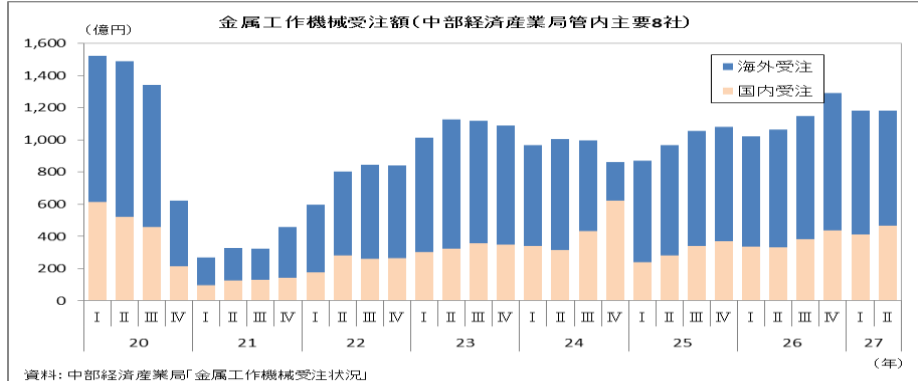
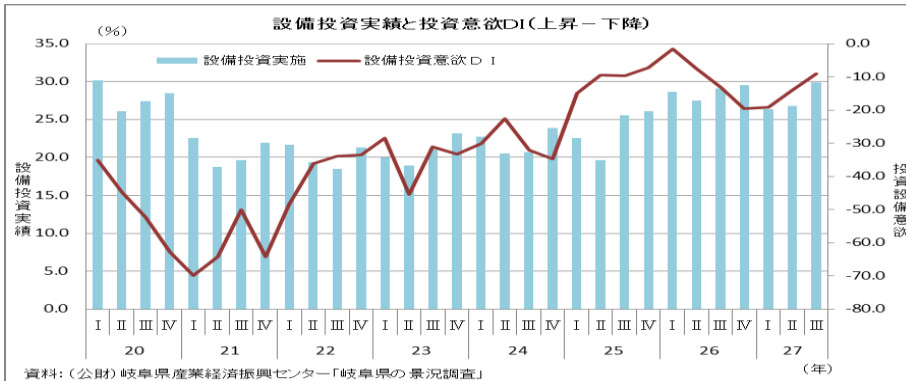
消費税率が10%に引き上げられた場合の影響について

- ◆自動車、エアコン等が売れなくなると思われるため大きな受注減が予想される。(輸送用機械)
- ◆単価的に安い商品を扱っているためそれほど影響はないと考える。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆軽減税率がどのようになるのかが心配。(多治見商店街)
- ◆昨年4月の増税時に買い控えになったことから、次回の増税時も同様になると思われる。(食料品)

設備投資

○平成27年7－9月期の設備投資実績は2期連続で増加した。目的別では、「補修・更新」が増加し、「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」が減少した。

○設備投資意欲は3期連続で増加した。

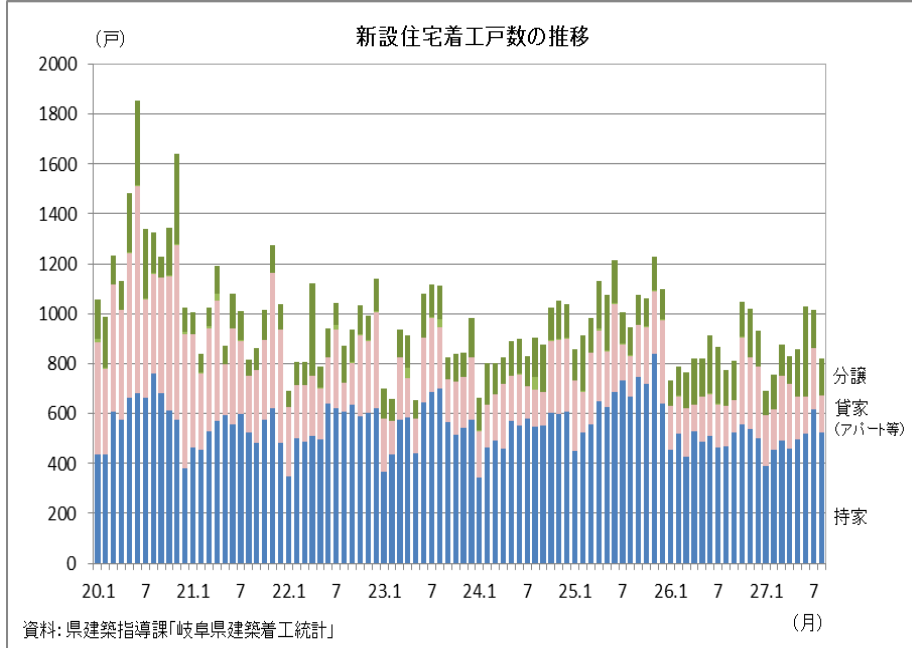


現場の動き

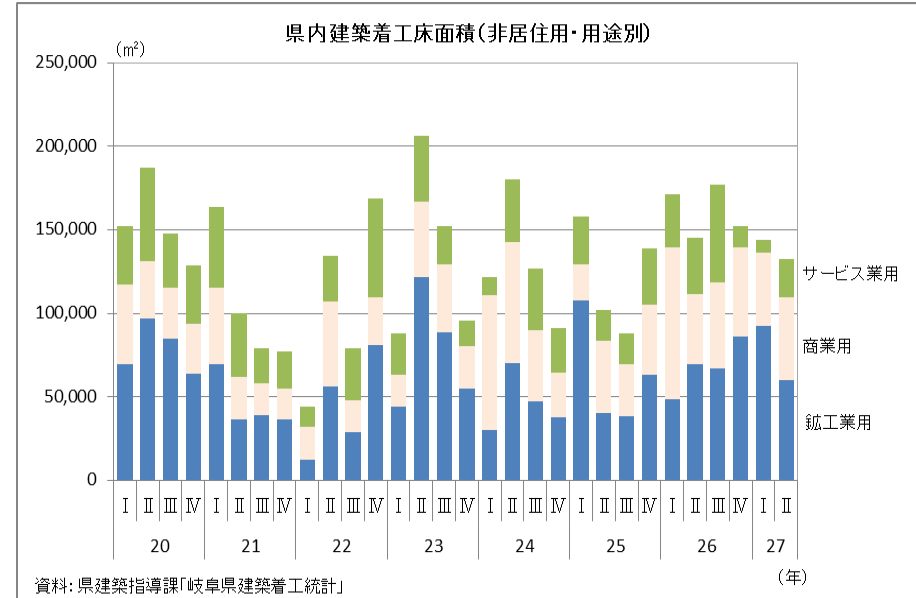
- ◆2017年に中国とメキシコに工場を置く計画。(金属製品)
- ◆来月上旬、展示場内のモデルハウスとリフォーム館を同時オープン。(住宅関連)
- ◆工場の増設のほか、通常更新を今期予算2億円程度計画しているが、受注状況を見ながらになる。
- ◆国内に分散する工場を集約し効率化を進める。(以上、輸送用機械)
- ◆省力・省人化のための自動化装置の導入を検討。今年年末に実施予定。(食料品)
- ◆案件は更新目的が多い(金融)

住宅・建築投資

○8月の住宅着工戸数は、貸家が減少したものの、持家、分譲が増加したことにより、全体で前年同月比6.3%増と6ヶ月連続で前年を上回った。



○平成27年4-6月期の建築着工床面積は、商業用が増加したものの、鉱工業、サービス業用が減少し、全体では前年同期比8.8%減と2期連続で前年を下回った。



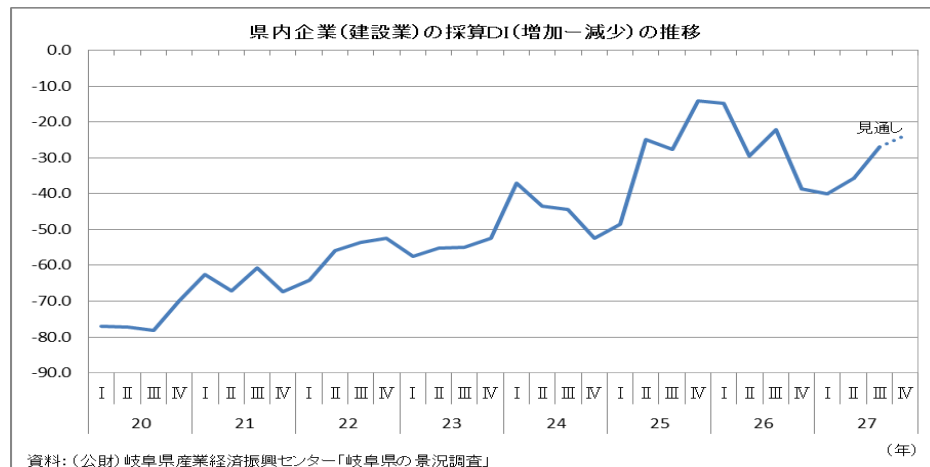
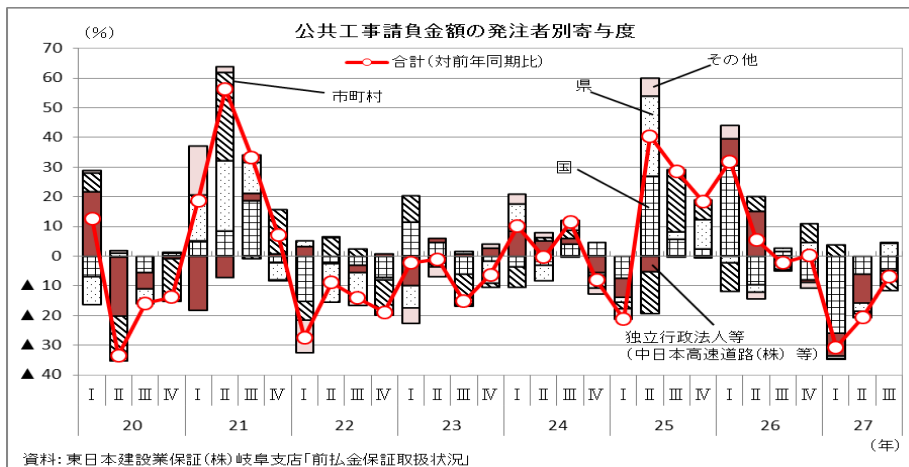
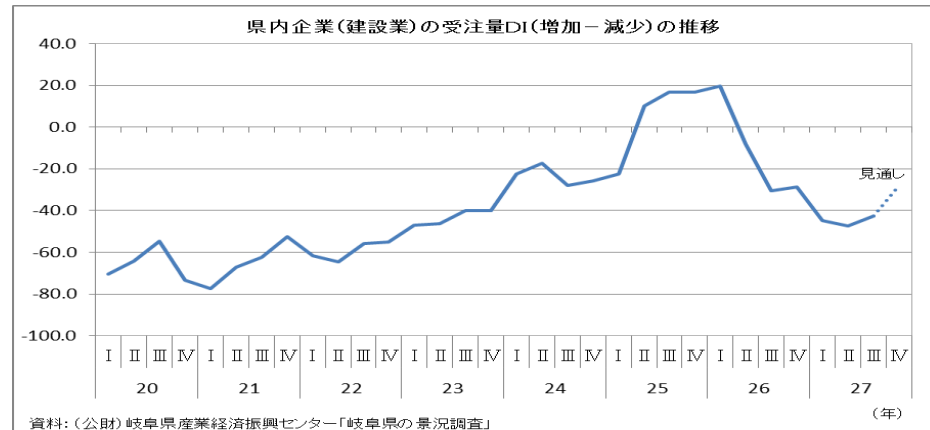
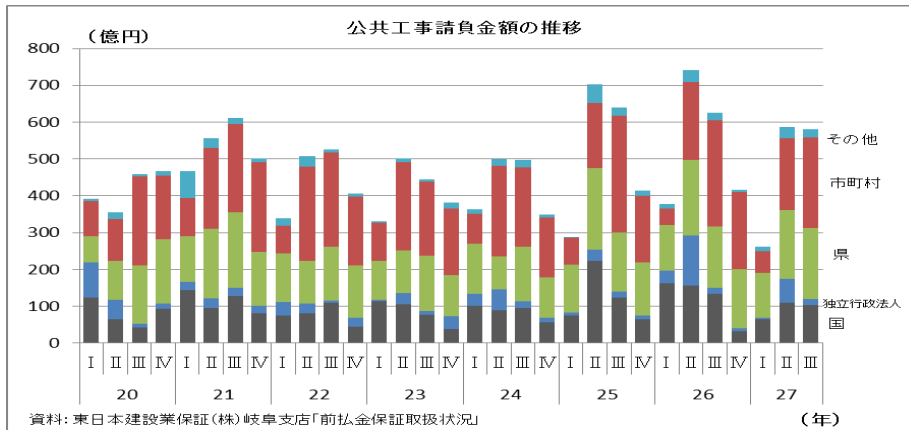
現場の動き

- ◆受注件数は前月と変わりなく、見込み客が増えてこない。(住宅関連)
- ◆山からの出材量は、雨天続きで先月に引き続き少ない状況が続いている。
- ◆A材(製材用材)は、引き合いが強い傾向にある。
- ◆B材(集成材)は、合板工場の生産調整の影響もあるが、供給は順調に推移。
- ◆C・D材(チップ・燃料用材)については、バイオマス発電施設稼働に伴う原木需要増の影響等から需要が非常に旺盛な状況が続いている。(以上、森林組合連合会)

公共工事

○平成27年7-9月期の公共工事請負金額は、前年同期比7.0%減と3期連続で減少。県、その他を除く発注が前年同期比で減少した。

○平成27年7-9月期は受注DI、採算DIともに改善。翌期も改善の見通し。

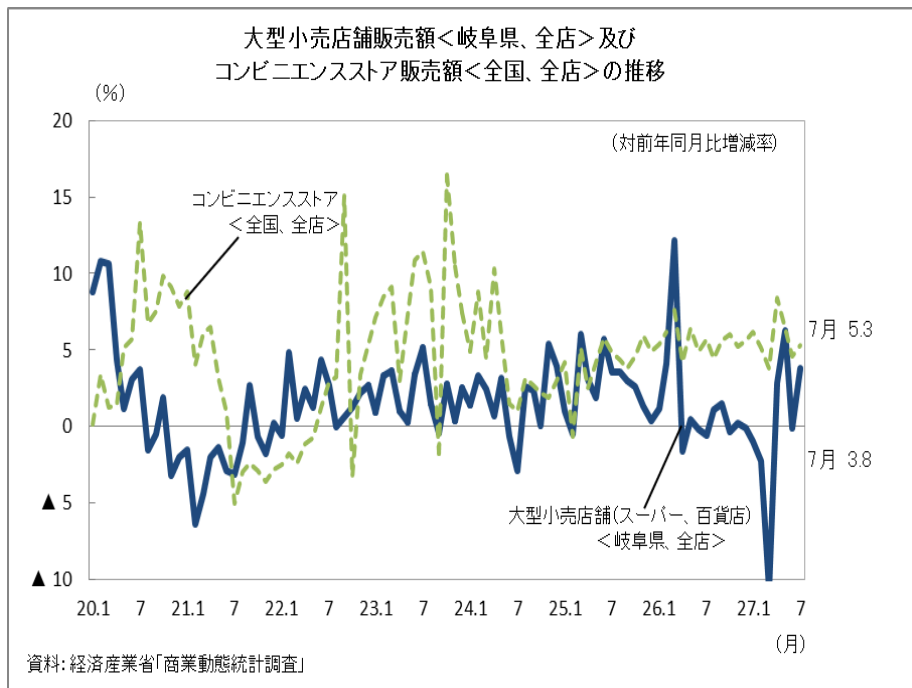


現場の動き

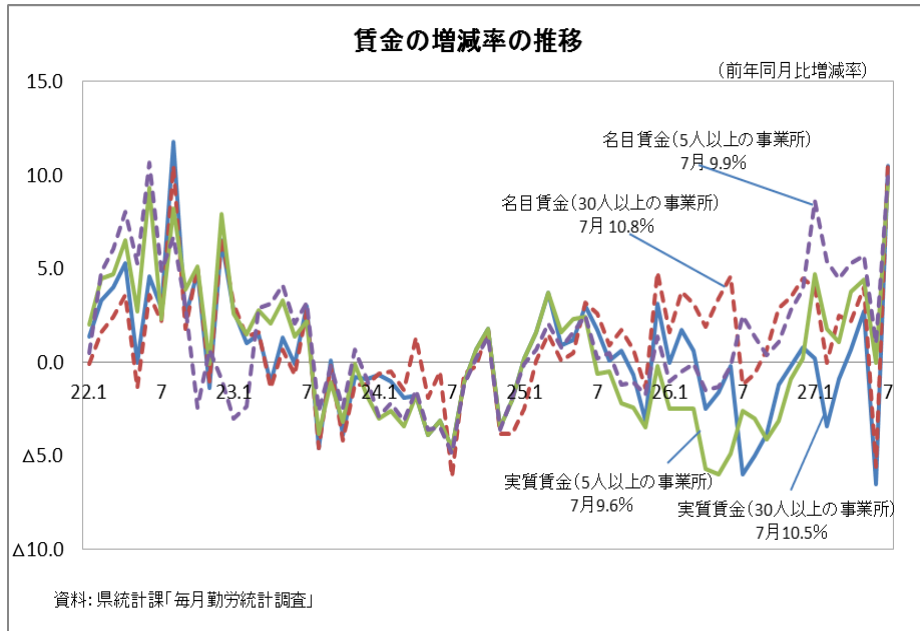
◆地域により異なるが、手持ち工事量が少ないところが多く、全体的に受注余力がある状況であると感じている。
(業界団体)

個人消費(流通・小売)

○7月の大型小売店販売額は、前年同月比3.8%増と2ヶ月ぶりに前年を上回った。



○7月の実質賃金は、従業員5人以上の事業所は前年同月比9.6%増、従業員30人以上の事業所は、同10.5%増となった。



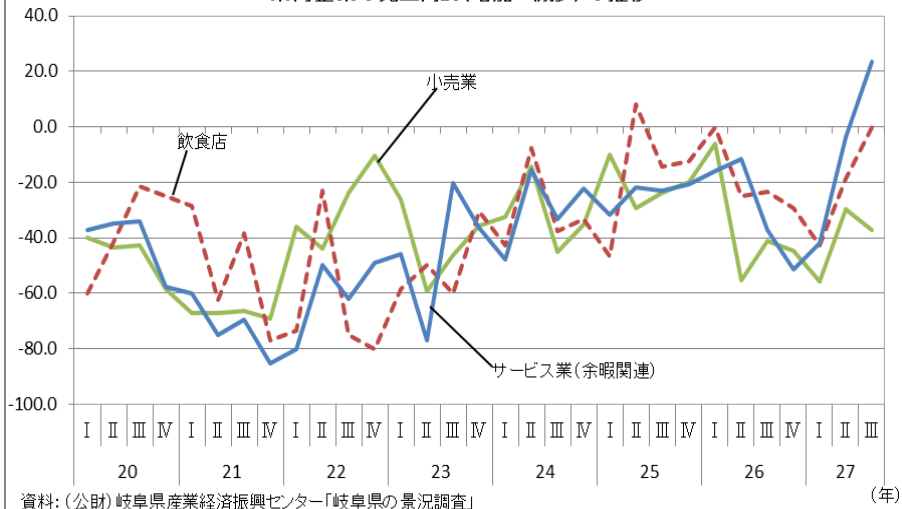
現場の動き

- ◆売上は前年同月比102.9%。食品が堅調で衣料が好調。秋物の売れ始めが去年よりも早い。
- ◆シルバーウィークは、天気が良く行楽日和であったため来客数が減少したと思われる。
- ◆客単価が前年同月比105.7%と消費税増税の影響が和らいでおり、全体的に客単価が上昇。(以上、大型小売店)
- ◆天候に恵まれたため、キャンプ用品が売れた。(スポーツ用品)
- ◆白物家電は好調。フィルター掃除付きエアコン、4Kテレビ、お掃除ロボット等高額商品が売れている。(家電)
- ◆アイスクリーム、冷凍食品等の売上が増加し、5カ月連続で前年実績を上回った。(コンビニ)

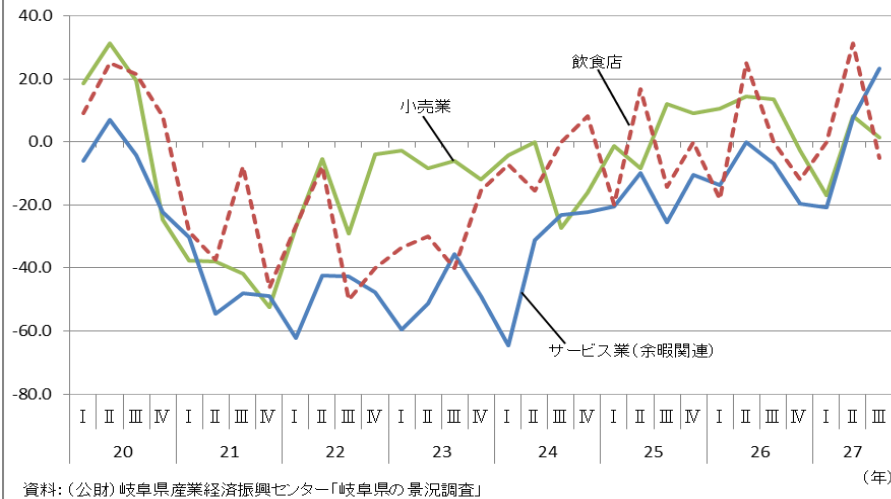
個人消費(流通・小売)ー2

○平成27年7ー9月期の飲食業について、売上高は増加したが販売価格は減少した。小売業については、売上高、販売価格ともに減少した。サービス業(余暇関連)については、売上高、販売価格ともに増加した。

県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇-下降)の推移



現場の動き

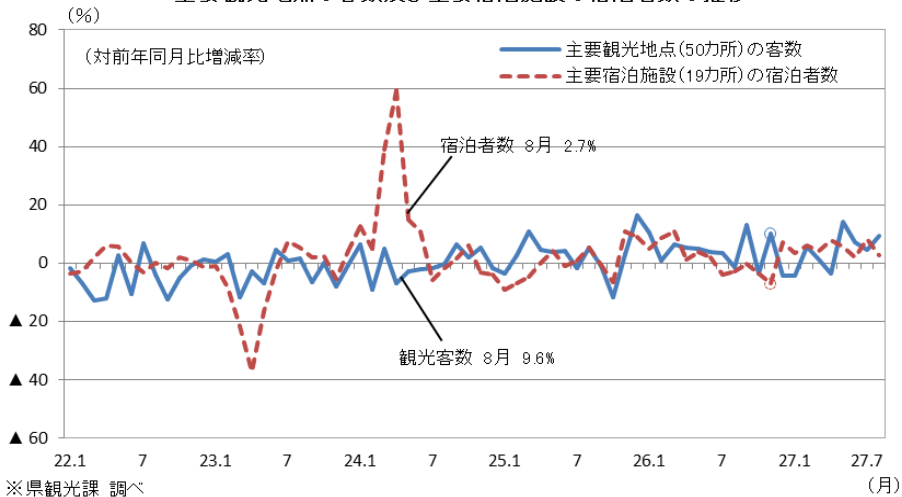
- ◆シルバーウィークの帰省客や来館者をターゲットに展開した県産品を絡めたフェアにより売上、来館者ともに前年同月比を大きく上回った。(アクティブG)
- ◆9月に入って涼しくなり、人通りが出てきた。ジュラシックアーケードは、大変な人出であった。
- ◆売上は、婦人服が前年同月比115%、飲食店が同120%(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆プレミアム付き商品券は、高額品を取り扱っている店舗に偏っている。
- ◆売上は、婦人服店が前年同月比90%、和菓子店が同140%。(以上、大垣市商店街)
- ◆外国人観光客が引き続き多いが、爆買いするような店舗はない。最近は個人や小グループの観光客が多い。
- ◆売上は、土産・雑貨店が前年同月比120%、衣料品店が同105%。(以上、高山市商店街)
- ◆シルバーウィークは人が良く出た。
- ◆売上は、酒類販売が前年同月比100%、子供服が同105%。(以上、多治見市商店街)

観光

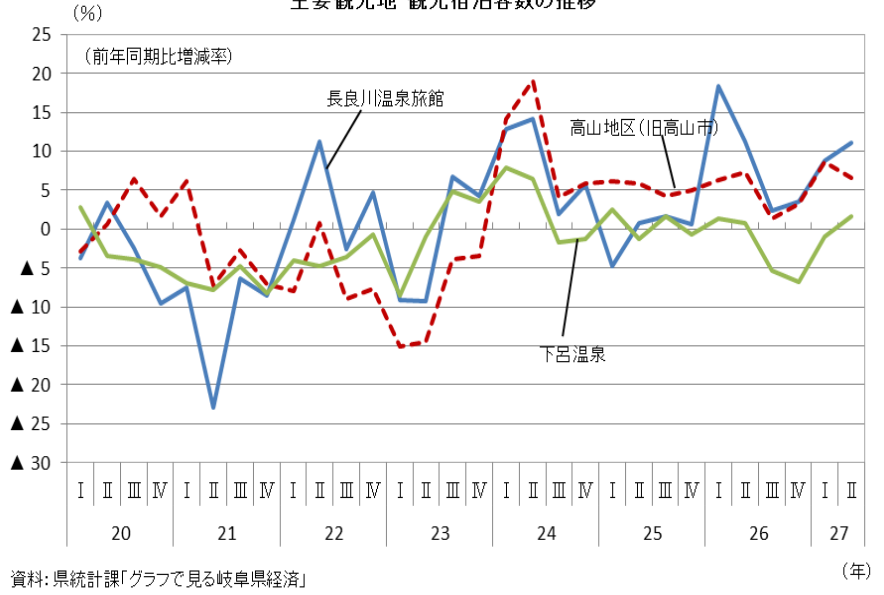
○主要観光地における8月の観光客数は、前年同月比9.6%増と4ヶ月連続で前年同月を上回った。一方、主要宿泊施設における宿泊者数は同2.7%増と9ヶ月連続で前年を上回った。

○主な観光地の平成27年4-6月期の観光客数は、全ての地区で前年を上回った。

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要観光地 観光宿泊客数の推移

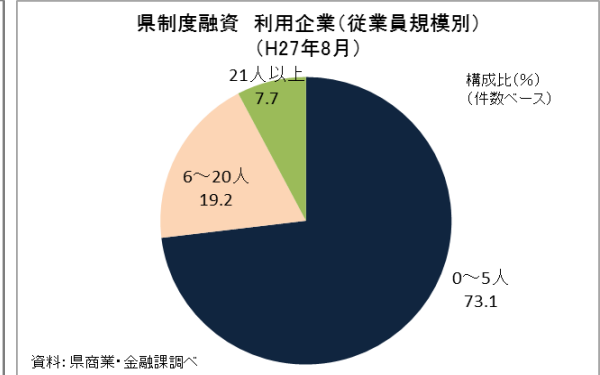
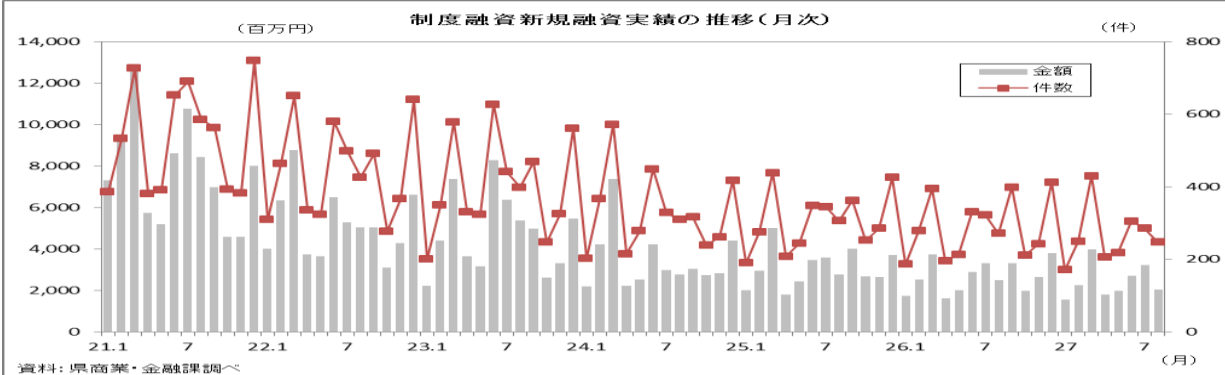
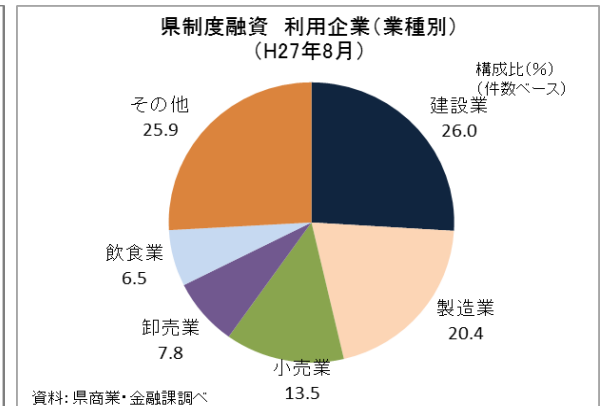
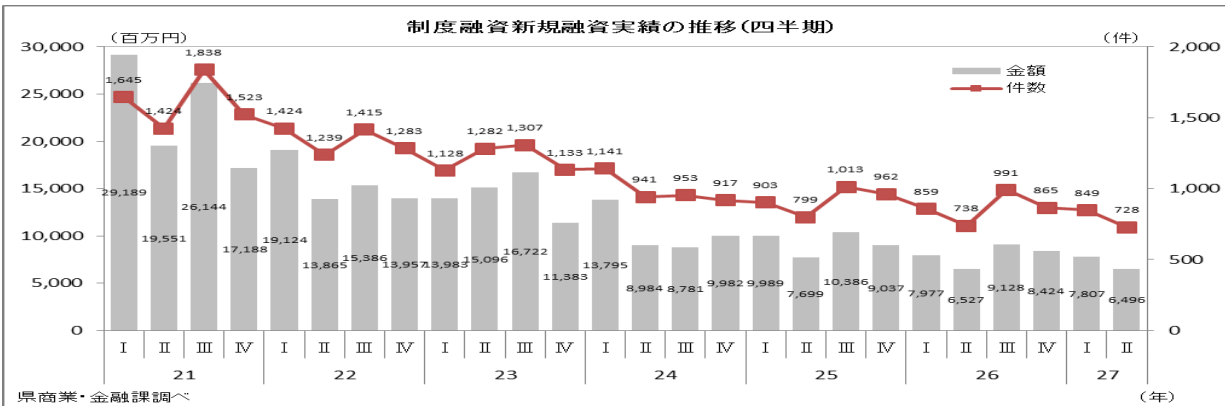


現場の動き

- ◆宿泊施設については、インバウンドの増加もあり、前年比で好調を維持している。(宿泊施設の総括)
- ◆トータルで見た観光入込客は、好天に恵まれたことが大きく、前年比で増加傾向にある。(観光地の総括)
- ◆夏休みのため、ファミリー層の予約が目立つ。高単価プランを中心に販売している。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆企業の連泊が目立つ。インターネット予約の客が増加している。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆中国人団体客が激増している。(多治見市内の宿泊施設)
- ◆北陸新幹線の開業効果が少しずつだが出てきている。インバウンドはネット予約のFITが好調。
- ◆インバウンドが好調。インターネットによる申込みが増加し、直前に予約が入ることも多い。
- ◆「ふるさと旅行券」発行の効果もあり好調。欧米からのお客様が好調。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆夏休みは、宿泊者数・売上げとも、ほぼ前年並み。円安傾向も落ち着き、中国の株下落もあまり影響しなかった。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は、平成21年秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しがみられる。
- 8月の実績は金額が前年同月比18.4%減と4ヶ月連続で減少し、件数は同8.9%減と3ヶ月連続で減少した。
- 建設業・製造業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が約7割を占める。

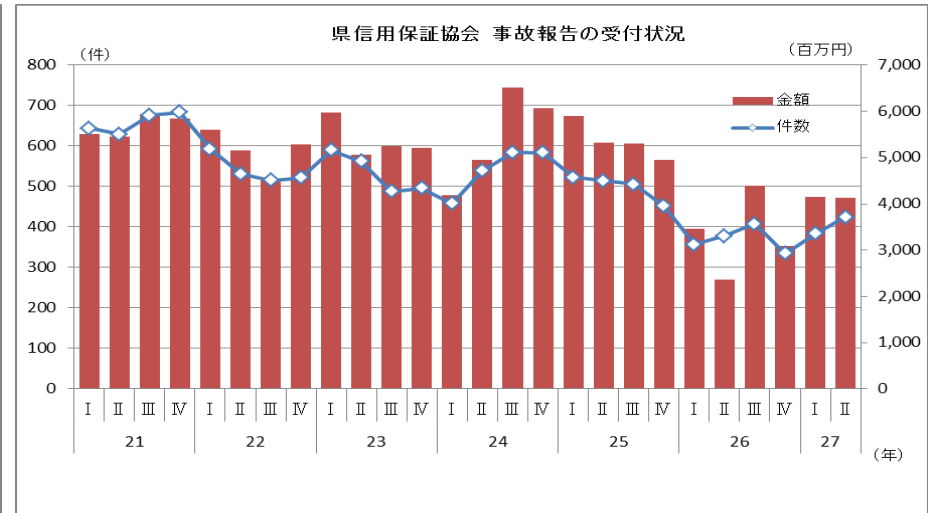
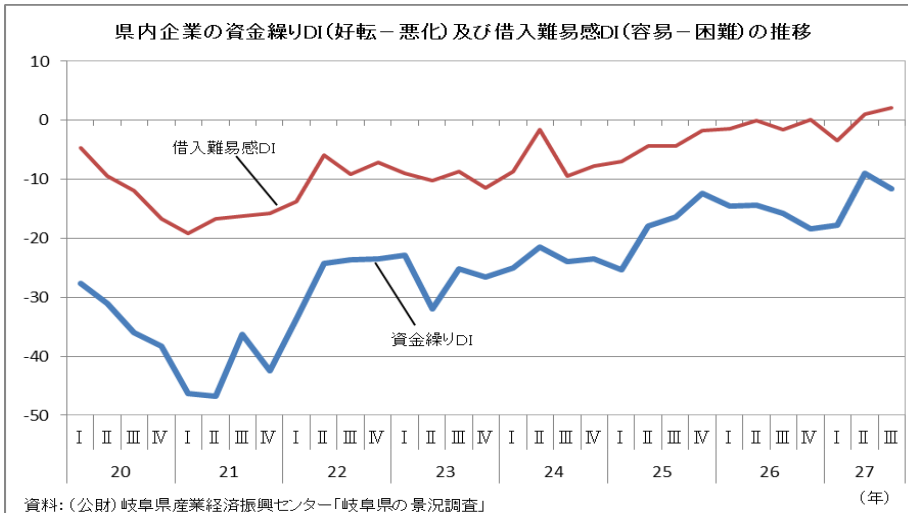
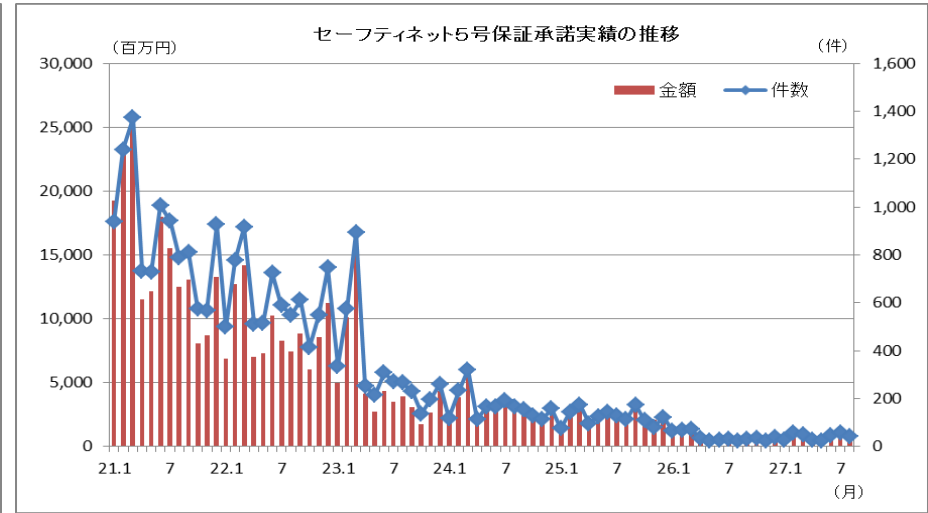
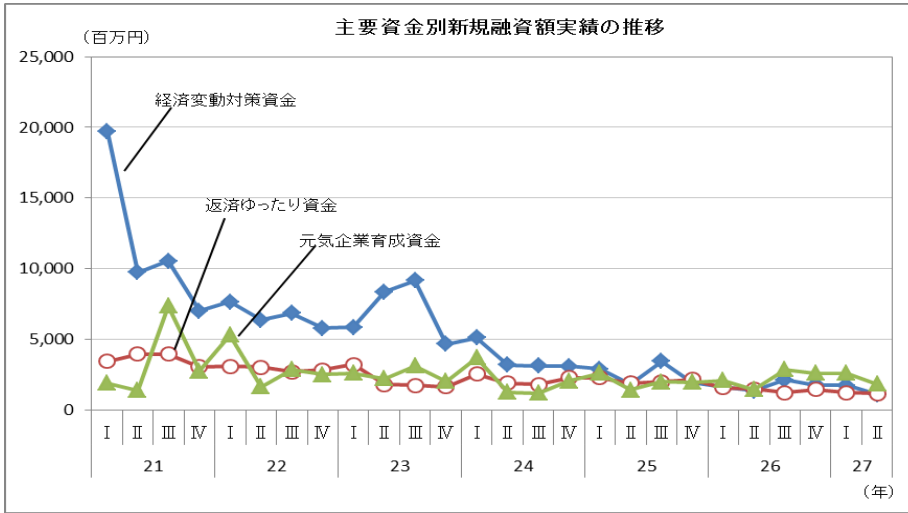


現場の動き

- ◆融資額は全体として横ばいである。
- ◆不動産業が建物を建設する案件が増加傾向。
- ◆最近では条件変更案件が増えている。(以上、金融)

資金繰りー2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資額実績、業況の悪化している業種に属する中小企業者を支援するための措置である「セーフティネット保証5号」の承諾実績は、平成21年秋口から沈静化が続いていたが、下げ止まりの兆しがみられる。
- 資金繰りについては、資金繰りDIが3期ぶりに減少し、借入難易感DIが2期連続で増加した。

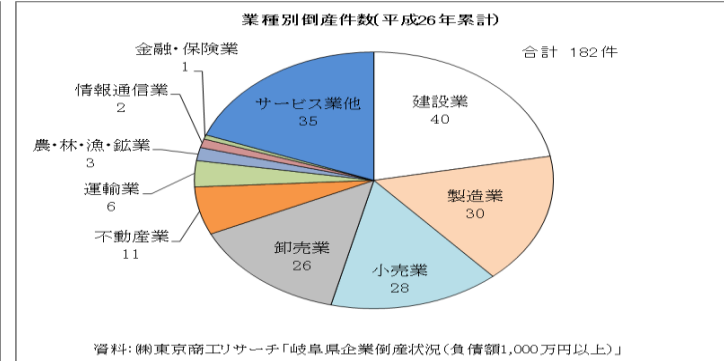
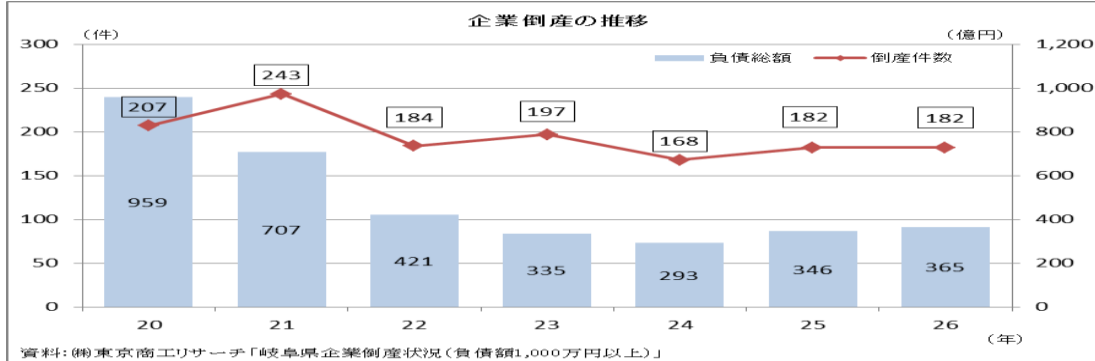
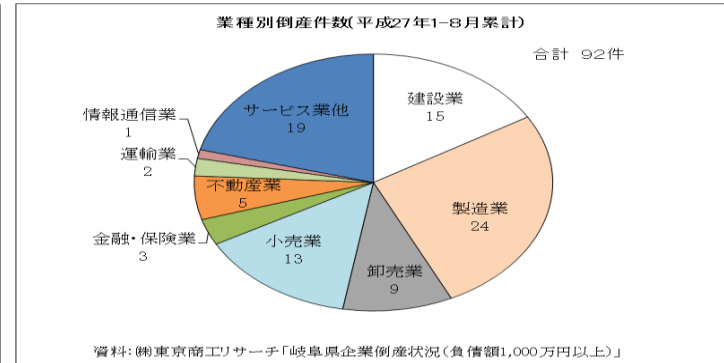
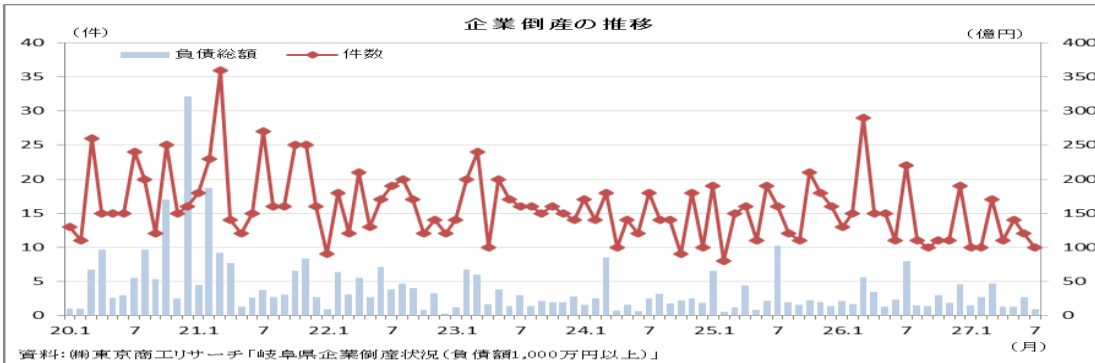


資料: (公財) 岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

倒産

○8月の倒産件数は前年同月比27.2%減の8件、
負債総額は同39.0%減の8億8,700万円となった。

○業種別では、建設業と製造業で
倒産件数の4割を占めている。



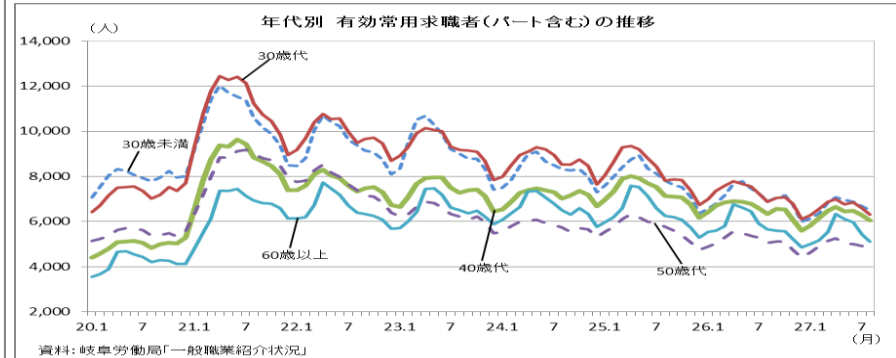
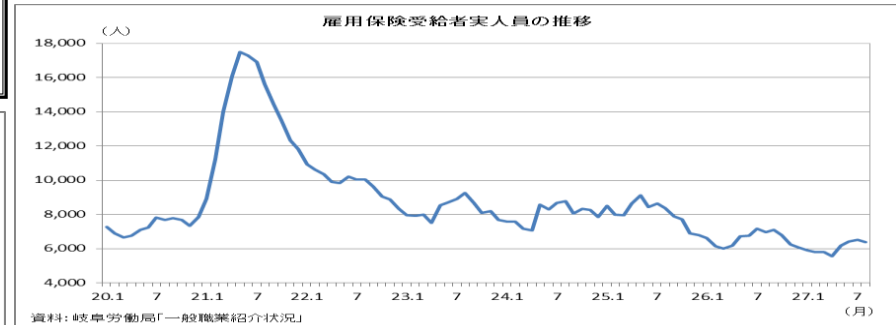
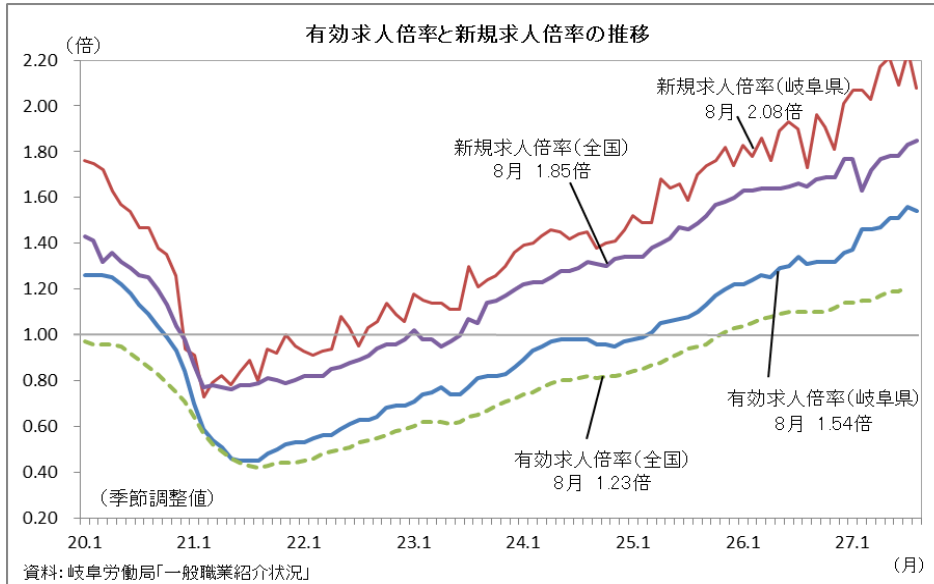
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆負債総額10億円を超える倒産が無く、1億円以上は3件であり全体の37.5%を占めているが、1億円以下の小口先が62.5%と半数以上を占めており、負債総額を抑制する要因となった。
- ◆倒産件数は前年同月比で3件減少となり、平成25年2月度の8件以来の低水準となった。
- ◆平成27年1月度から8月度までの累積倒産件数は92件となり、前年同期間の131件から39件減少。
- ◆負債総額が100億円以上に達する超大型倒産の発生は今後も考えにくく、件数についても大幅な増加には至らない状況にある。しかし、引き続き体力が弱く競争から脱落する中小零細企業を中心とした一定数の倒産発生は続く と推測される。

雇用

- 8月の有効求人倍率(季節調整値)は1.54倍と前月より0.02ポイント下降した。
- 8月の新規求人倍率(季節調整値)は2.08倍と前月より0.16ポイント下降した。

- 8月の雇用保険受給者人員は前年同月比8.1%減と26ヶ月連続で前年を下回った。



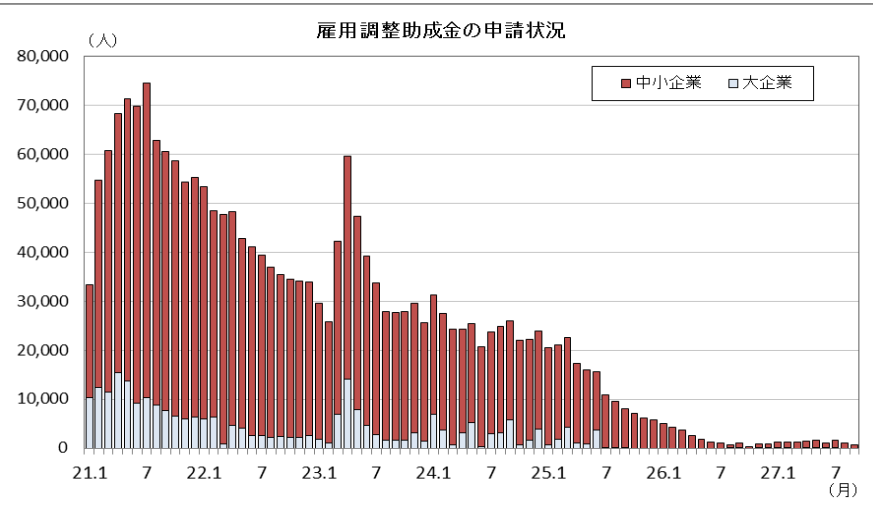
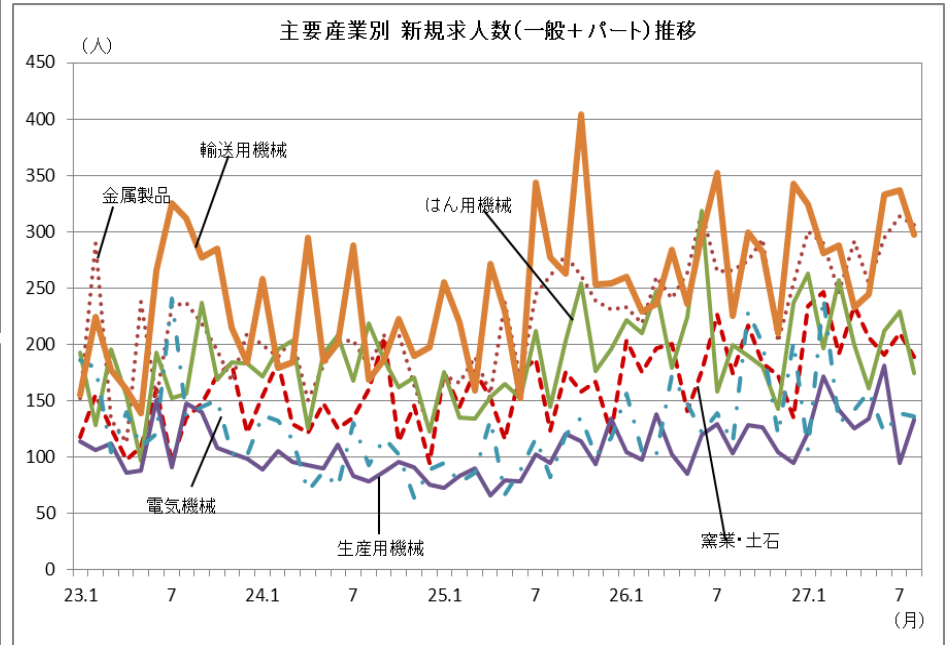
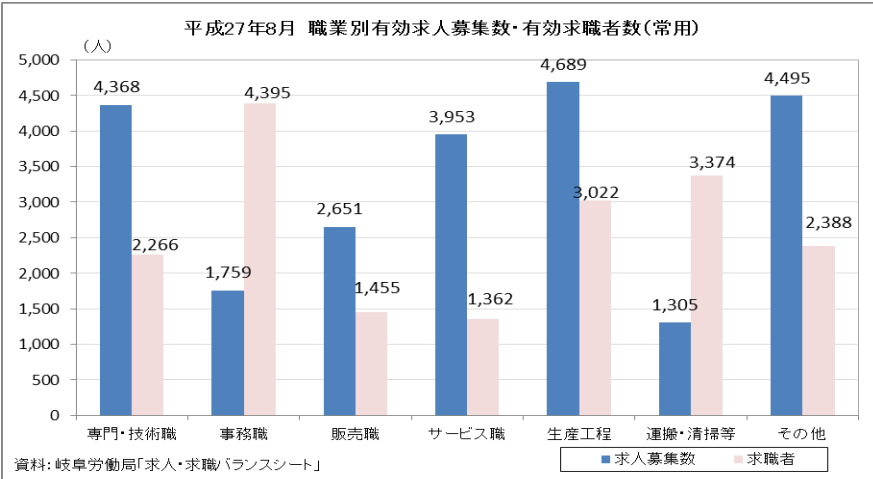
現場の動き

- ◆内定者を数名出したが、大企業の内定が決まったのか、辞退者が多い。
- ◆平成28年度の新規採用予定は、高卒2名、大卒1名で内定している。他に中途採用者を必要の都度採用しており、年度当初の必要人数は確保できた。(以上、輸送用機械)
- ◆今年度は採用時期も遅れており、大手企業採用による内定辞退もあり採用が厳しい状況。(プラスチック)
- ◆機械設計・開発などの若手(新卒)の技術者の確保が困難。(生産用機械)
- ◆人手不足は深刻であり、本部で加盟店向けの派遣センターを開設するなどの対応を講じている。(コンビニ)
- ◆専門職(技術職)や、建設業、製造業は引き続き人手不足感が強い。(金融)

雇 用(職業別)

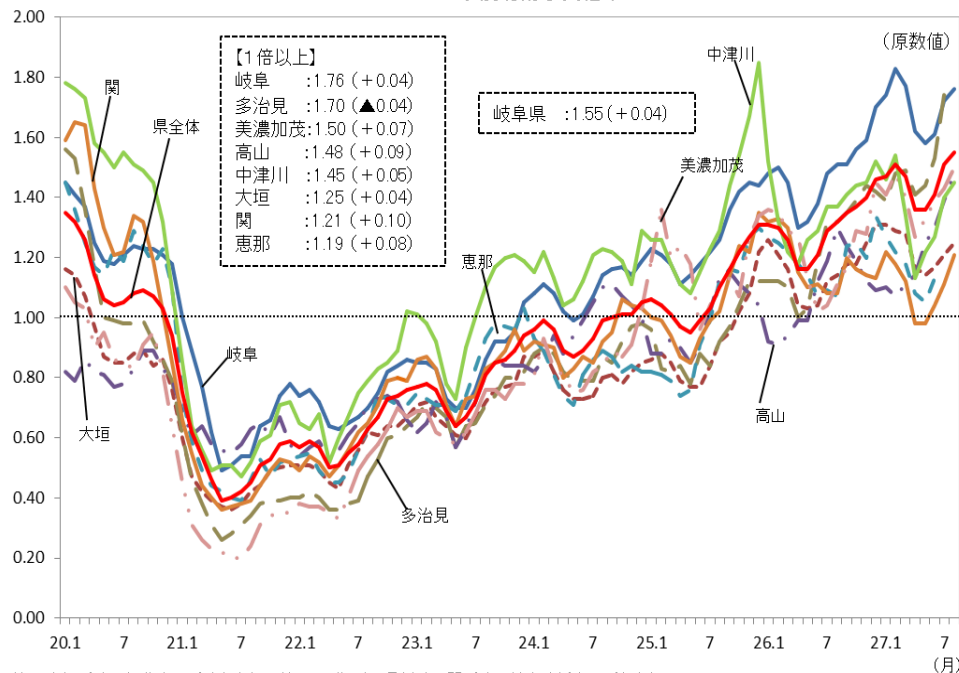
- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では、求人募集数と求職者数のギャップが大きい状況が続いている。
- 雇用調整助成金は東日本大震災直後に急増したが、現在は減少傾向にある。

- 8月の主要産業における新規求人数は、輸送用機械が前年同月比32.4%、生産用機械が同29.1%、電気機械が同20.4%、金属製品が同15.0%、窯業・土石が同8.6%増加したが、はん用機械は同12.6%減少した。



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



注1: 大垣所分(3損斐出張所分を含む) 注2: 平成21年4月以降の関所分(3岐阜八幡出張所を含む)
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

現場の動き(先月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆ 求人者数は増加、求職者数は横ばい。
- ◆ 雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク多治見>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク高山>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆ 求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆ 求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

<窓口の様子>

- ◆ 岐阜、大垣、多治見、高山、美濃加茂は混雑。中津川、関、中津川は同じくらい。

<ハローワーク美濃加茂>

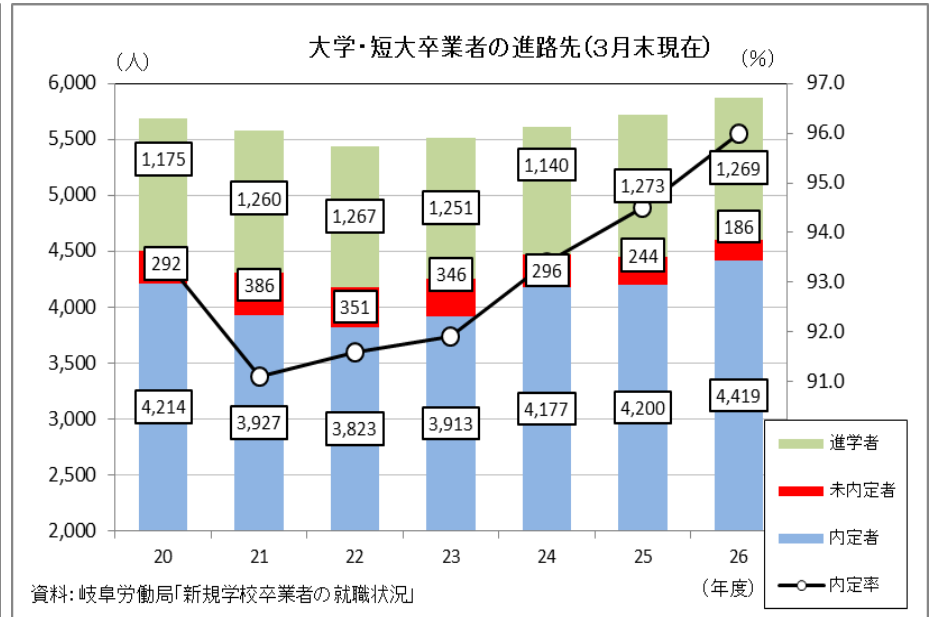
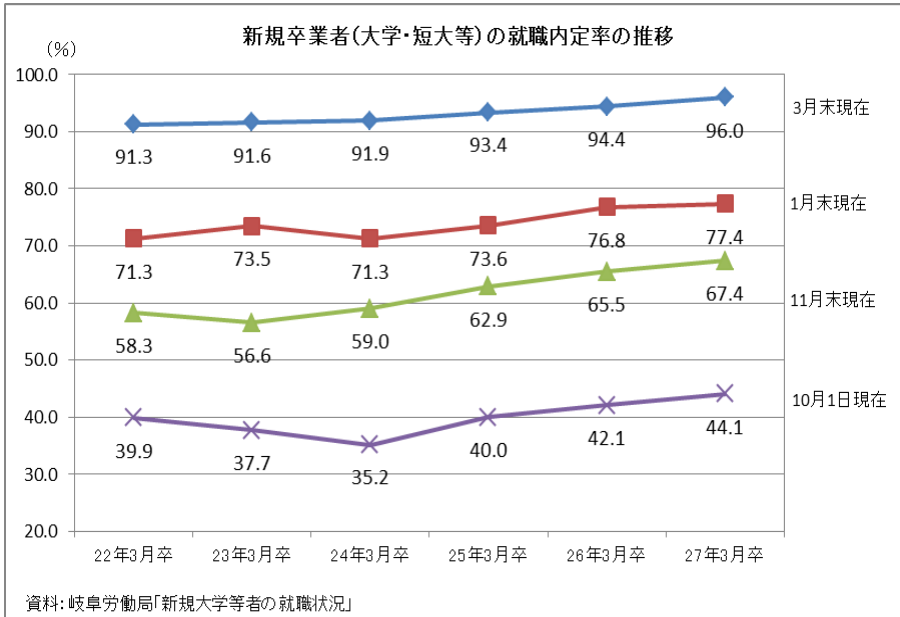
- ◆ 求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>

- ◆ 求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○3月末時点の大学・短大卒業者(平成27年3月卒業予定)の就職内定率は、前年比1.6ポイント増加し、最近6年間に於いて最も高い水準となった。



現場の動き(平成28年3月卒の就活状況等)

【岐阜県内の主な大学】

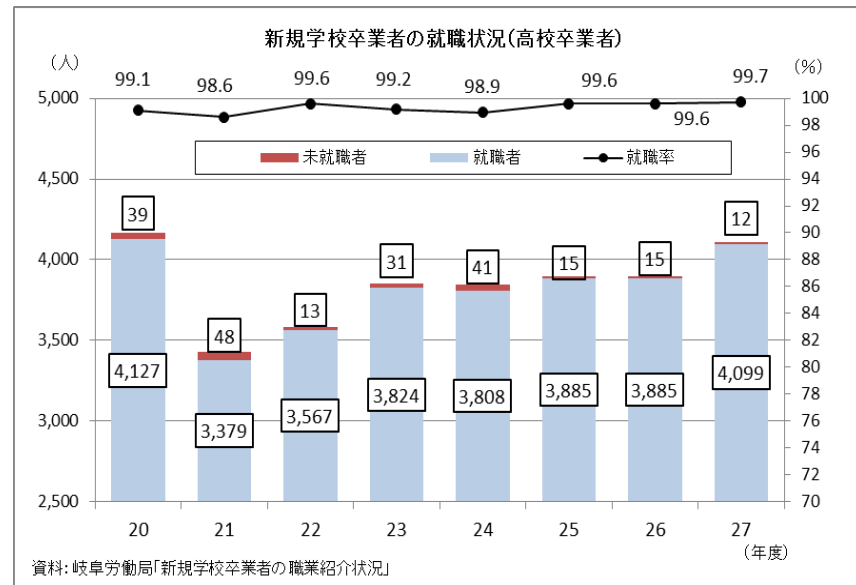
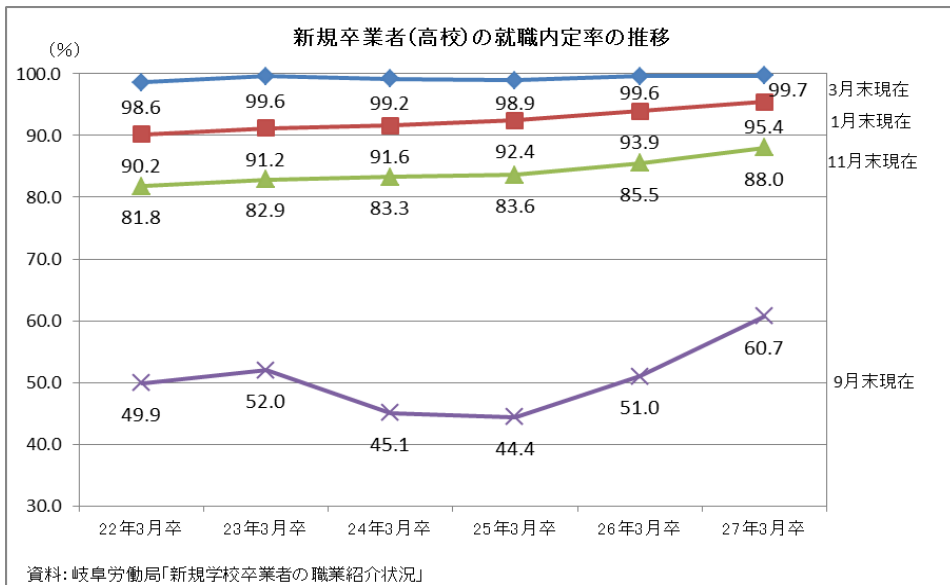
- ◆平成28年度採用の内定率集計は9月より開始。現在集計がスタートしたが、50%前後の予想値。
- ◆実感としては50~60%の状況。

【愛知県内の主な大学】

- ◆平成28年度採用の10月初めの集計結果は、70%強の予想。
- ◆内定率の集計は、10月半ば以降しか出てこないが、例年通りか少し下がる予定。

雇 用(高校新卒者の就職)

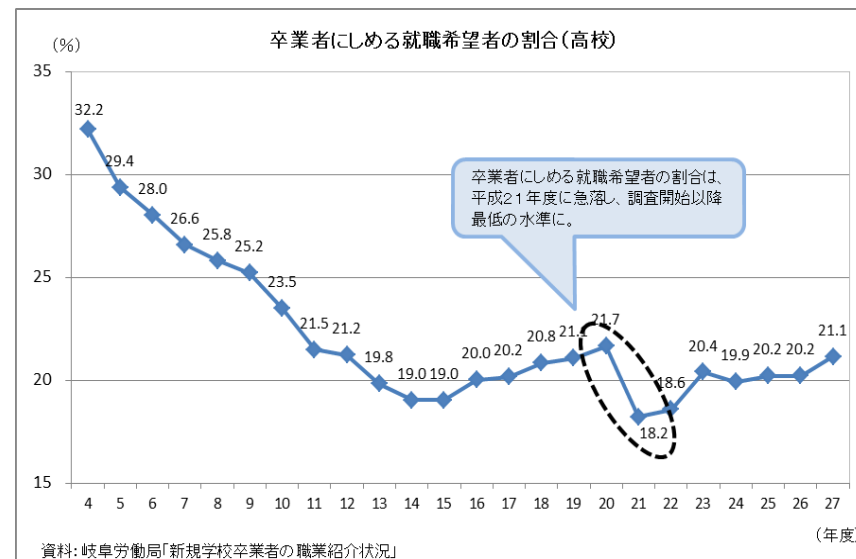
○3月末時点の高校卒業者(平成27年3月卒業予定)の就職内定率は、前年比0.1ポイント増加し、最近6年間に於いて最も高い水準となった。



現場の動き

- <ハローワーク岐阜>
- <ハローワーク大垣>
- <ハローワーク多治見>
- <ハローワーク高山>
- <ハローワーク恵那>
- <ハローワーク関>
- <ハローワーク美濃加茂>
- <ハローワーク中津川>

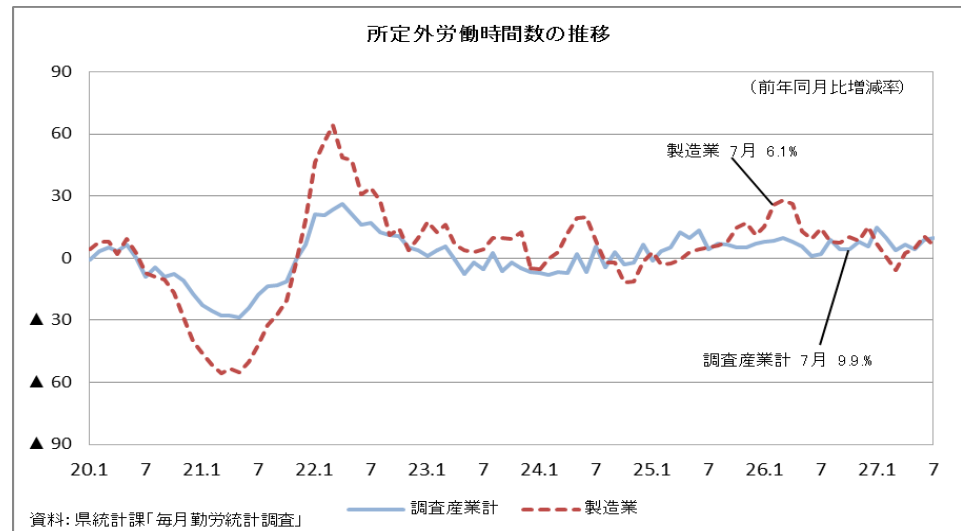
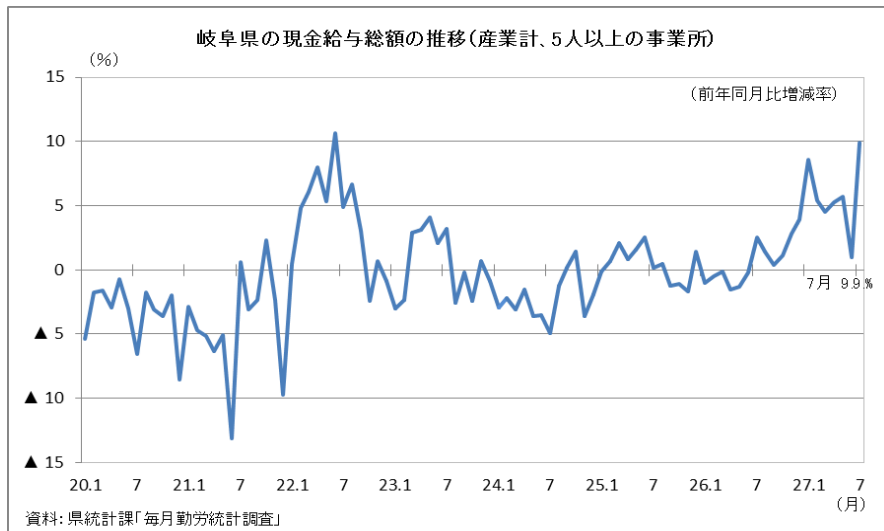
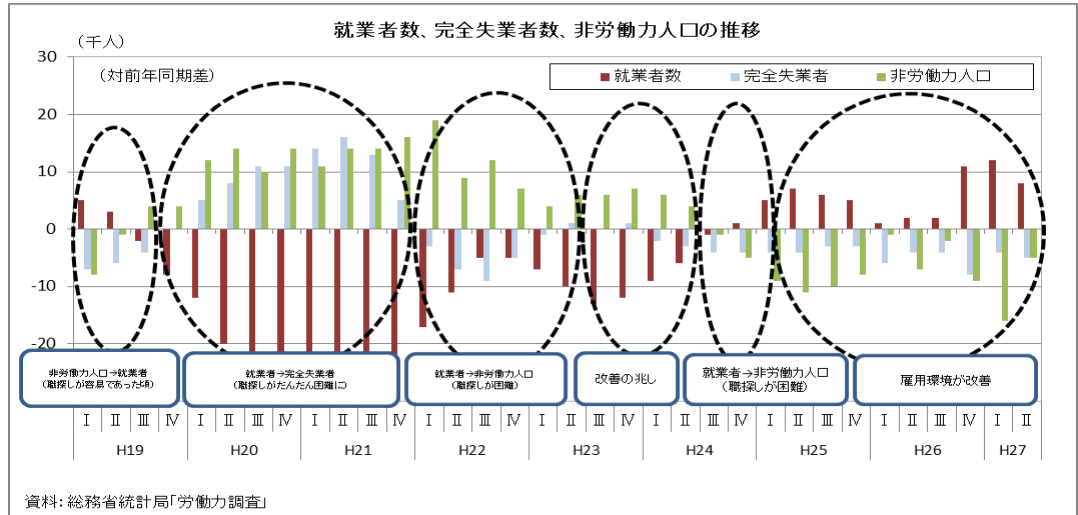
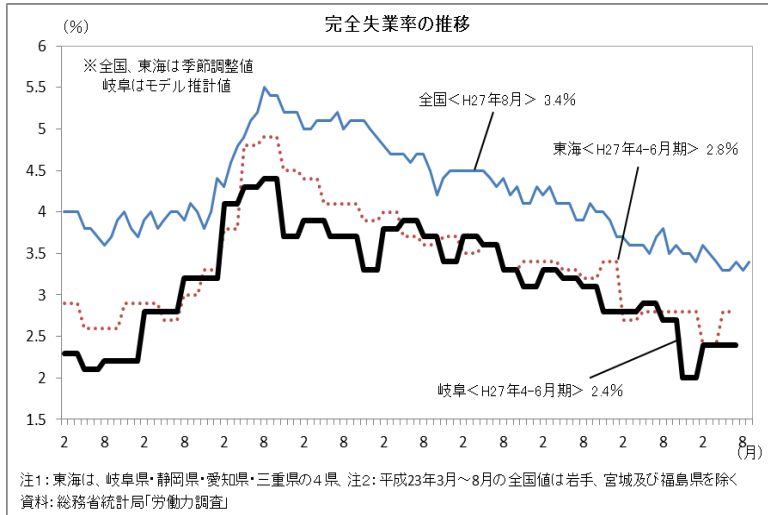
求人は減少。
求人は減少。
求人は減少。
求人は減少。
求人は増加。
求人は増加。
求人は減少。
求人は横ばい。



雇 用(完全失業率)

○平成27年4-6月期の完全失業率は2.4%と前期と同水準で推移した。

○平成21年以降、職探しが困難な状況のなか、平成23年に改善の兆しを見せた。平成24年に再び厳しい状況となったが、平成25年以降に雇用環境は改善している。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業全体では、輸入原料の高騰によるコスト高が続いている。中国経済の影響も見られるものの、輸送用機械関連を中心に受注や生産は好調を維持している。
- 直近の円安の動きについては、原材料価格の上昇が続き、製造コストを一層押し上げている上に、販売価格への転嫁が進んでいない企業が見受けられる。
- 地場産業は、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いているものの、生産に落ち着きを見せ始めた企業も一部でみられる。
- 個人消費は、雇用環境の改善による賃金上昇を背景に、消費の裾野は徐々に広がりつつある。売上が前年同月比を上回るまでに回復している小売店も見受けられ、駆け込み消費の反動減は和らいでいる。
- 観光では、宿泊施設については、施設によってバラツキはあるものの、好調を維持している。インバウンドは、特に中国、韓国、香港からの観光客の増加により、前年比で好調を維持している。観光入込客については、トータルで見た観光入込客は好天に恵まれたこともあり、前年比で増加の傾向。
- 雇用面では、雇用面では、有効求人倍率が1.54倍と上昇を続け、完全失業率も2.4%と改善していることから、総じて県内の雇用情勢が回復基調にあるものの、製造業の一部や建設業、非製造業では、人手不足に陥っている企業が見受けられる。
- 企業の資金繰りは、改善傾向にある。新規融資実績は、横ばいの状況が続いているが、借入難易度は緩やかながらも着実に改善している。